

ぱれっと

1月 2014
No. 173

“ぱれっと”には、サポセンにいろいろな人が集まり、それぞれの色（個性）が発揮され、新しい出会いや活動が生まれていく…そんな願いがこめられています。

sapo
P2.3 支援のかたち



- P2～P3 **協働** のまちづくり SENDAI ▷
支援のかたち —被災地でのパートナーシップ—
- P4 **つながる つなげる サポセン** ▷ NPO 活動お試し体験の会
- P5 **事業のご報告** ▷ シニア専門相談
- P6 **仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ**



社会の課題を解決するためには、市民・企業・行政が連携して取り組む“協働”が重要です。仙台の市民活動における協働の事例や関連情報をお伝えします。

SENDAI

支援のかたち

せんだいメディアテークと市民活動サポートセンターの協働事業である「考えるテーブル 支援のかたち」を12月11日に開催しました。今回のテーマは「被災地でのパートナーシップ」。協働の強化書2013プロジェクトの調査報告をもとに、参加者の皆さんと一緒に、これからの復興とまちづくりを進めていく上で欠かせない「パートナーシップ(協働)」について考えました。



協働の強化書2013プロジェクトとは

2006年、仙台では行政とNPOの協働が進みつつある一方で、「行政・NPO どちらも協働をよく理解していない」「お互いのコミュニケーションが不足している」という課題も見え始めていました。これらの課題を受けて、29人の市民・行政職員が参加する「協働の強化書」研究会が発足。12回に及ぶ研究会開催と協働事業を行っているNPOと自治体に、協働に関するアンケート調査を実施し、協働についての全体像を解説する概論と17の協働事例を紹介する「協働の強化書」を発行しました。

その発行から5年以上が経過し、さらには東日本大震災を経て、より多様な協働が生まれ、新たな課題も見えてきています。このような背景を受けて、現在の協働について調査を行っているのが「協働の強化書2013プロジェクト」です。プロジェクトにはNPO法人せんだい・みやぎNPOセンターや、東北大学大学院経済学研究科非営利組織論ゼミナール(西出ゼミ)などが参加しています。

「考えるテーブル支援のかたち」では、協働の強化書2013プロジェクト・西出ゼミの中尾公一さんより、県内16の市町での震災後の行政とNPOの協働について調査報告をしていただきました。

16市町それぞれの協働のかたち

中尾さんの発表によると、震災後に協働が生まれた背景、生まれなかった背景は16市町でそれぞれ異なり、仙台のように人口もNPOも多い市では、行政とNPOの協働も生まれやすく、逆に小さな市町では「協働は、NPOとではなく直接住民と」と回答するところが多かったようです。

また、震災以前から協働の実績があったことや、橋渡し役となる第三者の存在が、震災後の協働を後押ししていました。それらがなくても協働が生まれた事例では、NPO側の事業提案能力によるものでした。協働の多くは、NPOからの能動的行動から生まれ、行政から動いた事例は、災害FMなど緊急なニーズに対応するためのものにとどまりました。同時にNPOには、協働で事業を実施するにあたり、事業に対する責任と自主運営が求められました。

委託事業など行政から資金が投入される場合、NPOにとっては、資金が安定するため雇用が確保できるというメリットがある反面、公的予算に依存することになり、事業の自由度や柔軟性が制約されてしまうと回答するNPOもありました。

被災地での パートナーシップ

調査で報告された多種多様な被災地でのパートナーシップ。行政とNPOの二者間の協働にとどまることなく、住民や自治会・地域組織などを巻き込みながら、それぞれがそれぞれのできることを行い、復興に取り組んできた様子が見えてきました。（太田貴）

参加者への問いかけ

調査報告の後、中尾さんから会場に以下の二つの問いが投げかけられました。

1 行政とNPOはそれぞれ何を考え、行動をしていけば、よりよい被災者支援ができるのでしょうか。

2 災害時に、行政とNPOに加え、住民はどのような役割を果たしていけるのでしょうか。



協働の強化書 2013 プロジェクト
西出ゼミ 中尾公一さん

学生からNPOとして復興に携わっている方、行政職員まで37名の参加者は、5つのテーブルに分かれて、この問いに対して各自の考えを語り合いました。

どのグループからも出ていたのは、協働を始めるにも進めるにも、お互いのコミュニケーションが大切だということ。お互いに何をどこまでできるのか、何が必要なかを伝え、報告を行うことで初めて協働が成り立つという意見です。

また、「住民はどのような役割を果たしていけるでしょうか」との問いかけがあったことで、参加者のみなさんは、それぞれ自分の立場で果たせる役割について考えるきっかけになったようです。



▲ 各テーブルでの語り合い



考えるテーブルとは…

人が集い語り合いながら、震災復興や地域社会表現活動について考えていく対話のための場をメディアテークのさまざまな場所に開いています。ホストをつとめるのは、スタジオ活動の協働者である市民です。テーブルをメディアとし、ライブで語り合う、生きた学びの営みです。 助成：財団法人 地域創造

www.smt.jp/thinkingtable2012/

協働の強化書 2013 プロジェクト

▶ 「協働の強化書2013プロジェクト」は、東日本大震災などを経て、2006年当時とは変化が生まれている現在の協働について、調査するものです。

▶ 連絡先

〒980-0804

仙台市青葉区大町 2-6-27 岡元ビル 7F

NPO 法人せんだい・みやぎ NPO センター内

TEL：022-264-1281 FAX：022-264-1209

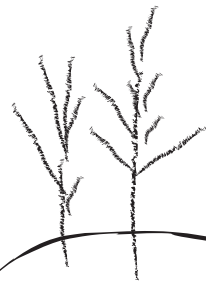
Mail：minmin@minmin.org

HP：http://www.minmin.org

つながる
つなげる
サポセン

NPO 活動お試し体験の会

退職後に、「地域や社会で何かの役に立ちたいけれど、自分がどのように役に立つことができるのか分からない」というシニア世代の方々に、地域活動を体験していただく機会をつくりました。第2弾となる今回は、町内会や子ども会と連携して活動している「まちなか農園藤坂」の取り組みに参加していただきました。



はじめの一步 を踏み出そう！

今年度2回目のNPO活動お試し体験

12月22日(日)10:00～12:00

みんなで、まちなか農園の活動に でかけてみませんか！

今回、青葉区花壇大手町町内に集合した参加者6人は、それぞれ定年退職後に地域活動をしてみたいと考えている方々です。今回は、「まちなか農園藤坂」に隣接する遊悠友広場で行われる「もちつき大会」に参加し、地域活動を実際に体験してもらいました。

まず、「まちなか農園藤坂」の世話人今野さんから農園の成り立ちなどの説明を受けました。参加者は、まちの中に住民が運営する農園があることに驚いた様子。さらに住民の方々に交じって、大学生やNPO・市民活動団体の方々が一緒に活動しているということを知り、いろいろな人がつながり、関わりながら農園が成り立っている仕組みや運営方法に感心していたようです。

sapo

案内人は、
花壇・大手町地区ランドデザイン作成委員会
「まちなか農園藤坂」
分科会リーダー

今野均さん



「もちつき大会」は、地域住民の方々を中心に、杵と臼を使って本格的に行われ、ついた餅は農園で作った野菜がたっぷり入ったお雑煮などにして振舞われました。

体験の会に参加した方々は、今回の体験をきっかけにお互い情報交換しながら活動の幅を広げていきたいと意欲的でした。シニア活動支援センターでは、次のステップに進むための相談に個別にも応じていきますので、引き続きご利用していただきたいと思っています。



Let's
enjoy!

まちなか農園藤坂とは…

仙台市内の青葉区片平地区、花壇大手町町内会の中にある農園です。

地域のコミュニティを育てることを目的に、地域住民、市民団体、農業高校、大学、行政などが連携して運営しています。

場所：仙台市青葉区大手町4

blog：「まちなか農園日誌」

<http://matinakafarm.da-te.jp/>

事業のご報告

シニア
専門相談

シニア活動支援センターでは、シニア世代が持っている経験やスキルを活かし、これから活動を始めてみたいと考えている方を対象とした相談会を開催しています。毎回、地域・市民活動や起業などに精通する専門相談員を招き、個別のご相談に応じてきました。相談者の方々は、相談後も経過報告を兼ねて度々来館され、活動に役立つ情報を得ながら活躍しています。今年度、実施した専門相談の様子をご報告いたします。

第1回 5月18日(土)

相談者：5人

「子どもの
学習支援活動に
興味・関心のある方へ」



専門相談員

NPO法人アスイク代表理事 大橋 雄介さん

相談者全員が以前から子どもの学習支援に関わっていて、今後も社会貢献しながら生きがいを見つけないという意欲的な50代～60代の女性でした。子どもの学習支援に関わる団体の活動を知り、その結果3人の方が、被災した子どもや経済的に余裕のない子どもたちへの学習支援の現場を体験することになりました。

第2回 7月20日(土)

相談者：5人

「NPO・市民活動の団体
立ち上げや地域ビジネス
に興味・関心がある方へ」



専門相談員

NPO法人せんだい・みやぎNPOセンター
ソーシャルビジネス・コミュニティビジネス
担当 佐々木 秀之さん

相談者のうち4人は、市民活動サポートセンターで定期的に開催している「NPOいろは塾」の受講生でした。NPOの基礎を学んだあと、それぞれの思いを棚卸して、活動・事業内容に照らし合せ、NPOの立ち上げがよいのか、またソーシャルビジネス・コミュニティビジネスが合うのかなど、アドバイスを受けました。

第3回 9月21日(土)

相談者：5組7人

「まちづくり・コミュニ
ティづくりの活動に、
興味・関心がある方へ」



専門相談員

コミュニティ・ワークス代表 青木 ユカリさん

相談内容は、地域の役に立つ活動を模索している方へのセカンドライフ相談やNPO法人・一般社団法人の立ち上げ方から、人材確保や広報の仕方など、組織運営に関することまで幅広い内容でした。それぞれ今後の活動に向けて的確なアドバイスを受け、次のステップへ進むきっかけとなりました。

第4回 11月16日(土)

相談者：4人

「ものづくりに関心のある
方や、その特技を生かして
社会の役に立ちたい方へ」



専門相談員

一般社団法人 日本漆総合研究所
代表理事 蜂谷 哲平さん

相談の内容は、テーマに相応しく、趣味が高じて木工・家具作りの特技を生かしたい方、自転車の研究・開発で起業したい方、竹細工の講座をしたい方など、様々なものづくりに関連のある相談が寄せられました。それぞれの相談内容に対し、情報提供、また戦略の立て方などマネジメントについても教えていただきました。

次回
予告

第5回 2014年1月18日(土)「児童館ボランティアに関心がある方」

第6回 2014年3月15日(土)「テーマ未定」

仙台市市民活動サポートセンターからのお知らせ

ハジマル、フクラムプロジェクト vol.4 「支えて楽しむスポーツのカタチ」

日時：2014年2月1日(土)午後1時～午後3時
会場：仙台市市民活動サポートセンター 地下1階
参加費：500円(ワンドリンク付き) 定員：15名
ゲスト：市民スポーツボランティア「SV2004」
代表理事 泉田和雄さん

お申込み / お問い合わせ：

仙台市市民活動サポートセンター

Tel:022-212-3010 / mail:sendai@sapo-sen.jp

つながる つなげる サポセン

▶仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体や NPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

▷相談・つながるサロンとは

市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3階に集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

▶仙台市シニア活動支援センターとは

シニア世代の地域・社会参加活動を応援していますので、お気軽にお問い合わせください。

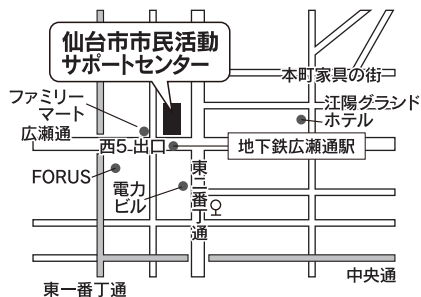
このようなご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日祝：午前10時～午後5時

▷ご案内図



- ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。
[最寄りのバス停] 電力ビル前、商工会議所前
[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ
- 当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車でご来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。
注) 路上駐車・駐輪は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

▶▶▶ 今回のテーマは、**スポーツ** です。

仙台は、野球・バスケットボール・サッカー・バレーボール・女子プロレスの各プロチームがあり、駅伝・マラソンが街を駆け抜けるスポーツが盛んな都市です。現在仙台・宮城には1000人近くの方が継続的に、「スポーツボランティア」としてスポーツチームやイベントを支えていることをご存知でしょうか。今回は、幅広いスポーツを市民の手でサポートしているスポーツボランティア「SV2004」の方々をお招きし、活動内容や想いを伺います。スポーツが好き、チームが好き、地域のために何かしたいと思っている方、活動を広げたいと思っている方ぜひご参加ください。

▷「ぱれっと」読者アンケート にご協力をお願いします！

サポセンホームページからアクセスいただくか、携帯電話等で右記の2次元バーコードを読み取ってご利用ください。



編集後記：

明けましておめでとうございます。いつも多くの方に利用していただいているサポセンも、年末年始の6日間はお休み。県外出身のスタッフには貴重な機会です。「お正月」といっても地域ごとに風習は違うもので、話を聞いてみると面白いですよ。お時間があつたらぜひ、スタッフとも話をしてみてください。今年もどうぞよろしく願いいたします。

発行：仙台市市民活動サポートセンター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042
HP <http://www.sapo-sen.jp>
Blog <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2014年1月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター
編集人：菊地竜生 菅野祥子 田口博徳 葛西淳子 松村翔子

▽開館時間

平日：午前9時～午後10時 / 日祝：午前9時～午後6時

▼休館日

毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)
及び、年末年始(12/29～1/3)

仙台市市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎ NPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行っています。[指定管理期間 2010年4月1日～2015年3月31日]